

令和3年度高知県学力定着状況調査の公表に係る県教育長コメント

令和4年3月17日

高知県学力定着状況調査は、学力調査等の結果から明らかとなった学力についての課題の改善状況及び定着状況を把握し、学習指導の充実や指導方法の改善に生かすとともに、各学校及び教育委員会における継続的な学力向上のための検証改善サイクルを確立することを目的として実施しています。

本年度は、子どもたちの学力や学習状況等を多面的・多角的に分析するため、質問紙調査も実施しました。

調査の対象となった小学校第4・5学年及び中学校第1・2学年の教科に関する調査結果については、本調査の学年及び教科ごとの問題の難易度や、これまで実施した調査の正答率などを勘案して分析を行いました。昨年度とは問題が異なるため、単純に正答率での比較はできませんが、小学校は、昨年度との比較においても概ね期待される正答率であったと考えられます。中学校は、教科ごとに差は見られるものの、全体的に昨年度と同等に正答率が低い状況であると判断されます。

中でも、小学校の算数においては、これまでと同様に学力の定着が図られているものと考えます。特に、図と式を関連づけて数量を理解する問題に成果がみられました。

また、国語は、言葉を手がかりに人物の心情や様子を読み取ることに成果がみられました。令和3年5月に実施した「令和3年度全国学力・学習状況調査」においても国語の学力に向上がみられ、今回の調査結果を含め、授業改善により国語科の学力が定着してきているものと評価しています。

一方、中学校の数学と英語には、引き続き課題がみられました。

数学では、全国学力・学習状況調査と同様に「方程式」のような基礎的な問題につまずきが見られました。また、英語は、聞き取ったことや読み取ったことを書く等の英語の技能を統合して答えるような形式の問題に、依然としてつまずきがみられています。

さらに、質問紙調査の結果からは、平日の授業以外での勉強について「まったくしない」と回答した児童生徒の割合が、全国参考値よりも高い状況がみられました。さらに、勉強するときは自分で計画を立てることや、テストでまちがえた問題は後でやり直すことについて、肯定的な回答の割合が、全国参考値よりも低いことが分かりました。

県教育委員会としましては、学習指導要領において求められている「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の3つの力をバランス良く育むため、今回の調査結果で確認された課題の解決に向け、組織的に授業改善に取り組むための「チーム学校」の体制強化を図るとともに、授業づくり講座等の教員研修の充実や、1人1台端末を活用した個に応じた学びの推進など、確かな学力の充実を目指した教育施策を進めてまいります。

また、市町村教育委員会や学校におかれましては、今回の調査結果から得られました市町村及び各小中学校の成果や課題を明らかにして、県全体の学力の定着状況と比較・検討しながら、今後の学習指導の改善に役立てていただきたいと思います。

さらに、ご家庭におかれましては、子どもたちが持ち帰る今回の調査結果の個人票をご覧になって、一人ひとりの子どもたちの頑張りを褒め、補う部分は共に確認いただくなど、家庭学習の充実が図られますよう、ご協力をお願いいたします。

高知県教育長 伊藤 博明